

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

**2 建学前**

受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。

本日の受験地..... 仮受験番号 仮一.....

令和元年度

## 2 級建築施工管理技術検定試験（前期）

学科試験問題

令和元年 6 月 9 日（日）

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は、表紙を入れて 20 ページです。
2. 試験時間は、**10 時 15 分から 12 時 45 分**です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
  - イ. [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから、**9 問題を選択し、解答**してください。
  - ロ. [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、**全問題を解答**してください。
  - ハ. [No. 18]～[No. 32]までの 15 問題のうちから、**12 問題を選択し、解答**してください。
  - ニ. [No. 33]～[No. 42]までの 10 問題は、**全問題を解答**してください。
  - ホ. [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから、**6 問題を選択し、解答**してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 解答は、別の解答用紙に、〔HB〕の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。  
それ以外のボールペン・サインペン・色鉛筆などを使用した場合は、採点されません。
6. 問題は、**四肢択一式**です。正解と思う肢の番号を次の例に従って塗りつぶしてください。  
それ以外の場合は、採点されないことがあります。

マーク例 ● 塗りつぶし

7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、よごしたり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. この問題用紙は、学科試験の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。  
途中退席する場合には、持ち帰りできません。



※ 問題番号〔No. 1〕～〔No. 14〕までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。

〔No. 1〕 通風及び換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 室内を風が通り抜けることを通風といい、もっぱら夏季の防暑対策として利用される。
2. 成人1人当たりの必要換気量は、一般に30 m<sup>3</sup>/h程度とされている。
3. 機械換気方式には、屋外の風圧力を利用するものと室内外の温度差による空気の密度の違いを利用するものがある。
4. 換気回数は、室内の空気が1時間に何回入れ替わるかを表すものである。

〔No. 2〕 冬季暖房時における外壁の室内側表面の結露防止対策に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 室内の換気をできるだけ行わない。
2. 室内の水蒸気の発生を抑制する。
3. 室内側表面に近い空気を流動させる。
4. 外壁の断熱性を高める。

〔No. 3〕 色に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 一般に明度や彩度が高いほど、派手に感じられる。
2. 純色とは、各色相の中で最も明度の高い色をいう。
3. 無彩色とは、色味をもたない明度だけをもつ色をいう。
4. 色の温度感覚には、暖色や寒色と、それらに属さない中性色がある。

〔No. 4〕 木造在来軸組構法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 筋かいをたすき掛けにするため、やむを得ず筋かいを欠き込む場合は、必要な補強を行う。
2. 構造耐力上主要な部分である継手又は仕口は、ボルト締、かすがい打、込み栓打等によりその部分の存在応力を伝えるように緊結する。
3. 筋かいの端部は、柱と梁その他の横架材との仕口に近付けず、くぎ等の金物で緊結する。
4. 階数が2以上の建築物における隅柱又はこれに準ずる柱は、原則として通し柱とする。

〔No. 5〕 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 構造耐力上主要な部分である柱の主筋の断面積の和は、コンクリートの断面積の0.4%以上とする。
2. 構造耐力上主要な部分である柱の帯筋比は、0.2%以上とする。
3. 梁の幅止め筋は、腹筋間に架け渡したもので、あばら筋の振れ止め及びはらみ止めの働きをする。
4. 構造耐力上主要な部分である梁は、全スパンにわたり複筋梁とする。

〔No. 6〕 鉄骨構造の接合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 完全溶込み溶接とは、溶接部の強度が母材と同等以上になるように全断面を完全に溶け込ませる溶接である。
2. 隅肉溶接とは、母材の隅部分を溶接する方法で、重ね継手には用いない。
3. 一定規模以下の建築物の構造耐力上主要な部分の接合を普通ボルト接合とする場合には、ボルトが緩まないようにナットを溶接したり二重にするなどの戻り止めの措置を講じる。
4. 支圧接合とは、ボルト軸部のせん断力と部材の支圧によって応力を伝える接合方法である。

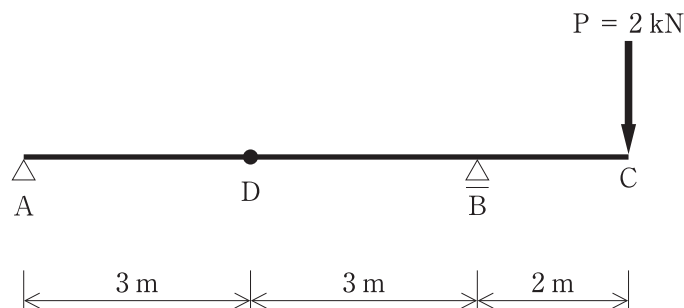
〔No. 7〕 基礎杭に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鋼管杭は、既製コンクリート杭に比べて破損しにくく、運搬や仮置きに際して、取扱いが容易である。
2. SC杭は、外殻鋼管付きのコンクリート杭で、じん性に富み、大きな水平力が作用する杭に適している。
3. ST杭は、先端部を軸径より太径にした遠心力高強度プレストレストコンクリート杭で、大きな支持力を得ることができる。
4. 場所打ちコンクリート杭では、地盤の種類によらず、周面摩擦力を杭の支持力に見込むことができない。

[No. 8] 構造材料の力学的性質に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 一定の大きさの持続荷重によって、時間とともにひずみが増大する現象をクリープという。
2. 物体に外力を加えて変形した後に、外力を除いても、変形が残る性質を弾性という。
3. 弾性係数の一つで、垂直応力度  $\sigma$  と材軸方向のひずみ度  $\varepsilon$  との比 ( $\sigma/\varepsilon$ ) をヤング係数という。
4. 細長い材の材軸方向に圧縮力が生じているとき、その力がある限界を超えると、その材が安定を失って曲がる現象を座屈という。

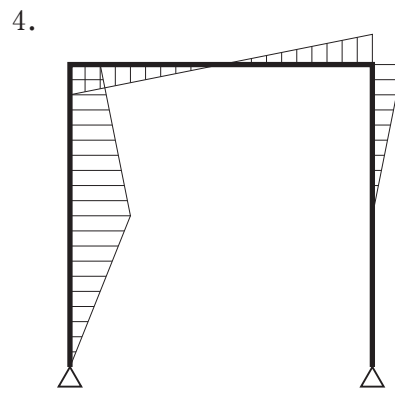
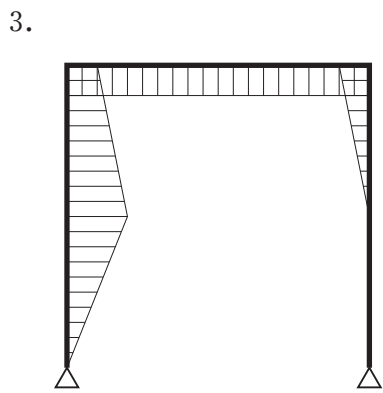
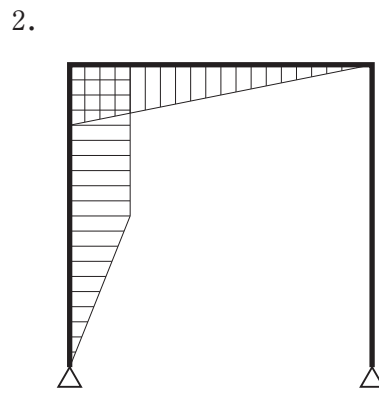
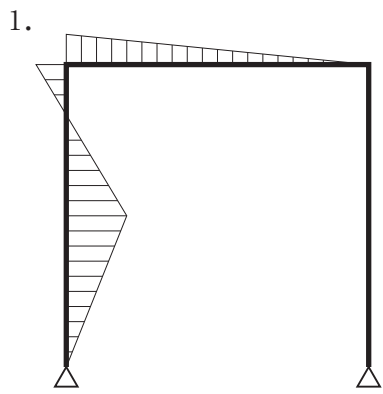
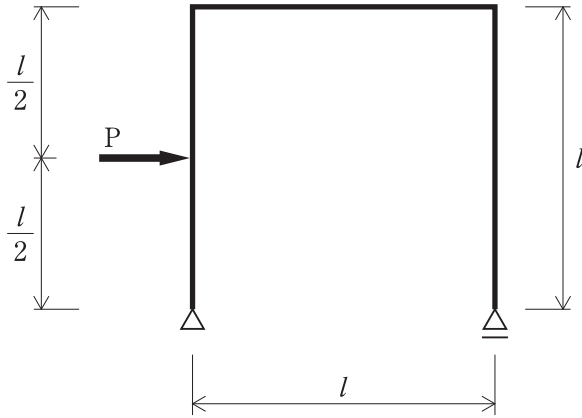
[No. 9] 図に示す張り出し梁の点 C に集中荷重 P が作用したとき、点 D に生じる応力の値の大きさとして、正しいものはどれか。



1. せん断力  $Q = 1 \text{ kN}$
2. せん断力  $Q = 2 \text{ kN}$
3. モーメント  $M = 2 \text{ kN}\cdot\text{m}$
4. モーメント  $M = 3 \text{ kN}\cdot\text{m}$

[No. 10] 図に示すラーメンに集中荷重  $P$  が作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

ただし、曲げモーメントは材の引張り側に描くものとする。



〔No. 11〕 コンクリートに関する一般的な記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリートの引張強度は、圧縮強度に比べて著しく低い。
2. 単位水量が多くなると、コンクリートの乾燥収縮が大きくなる。
3. コンクリートの耐久性は、水セメント比が低くなるほど向上する。
4. セメントの粉末が微細なほど、コンクリートの強度発現は遅くなる。

〔No. 12〕 木質材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 集成材とは、ひき板、小角材等とその繊維方向を互いにほぼ平行にして、厚さ、幅及び長さの方向に集成接着したものである。
2. 直交集成板とは、ひき板又は小角材をその繊維方向を互いにほぼ平行にして幅方向に並べ又は接着したものを、主としてその繊維方向を互いにほぼ直角にして積層接着し、3層以上の構造を持たせたものである。
3. 単板積層材とは、木材の小片を接着し板状に成形した一般材に、切削した単板を積層接着したものである。
4. 合板とは、切削した単板3枚以上を主としてその繊維方向を互いにほぼ直角にして接着したものである。

〔No. 13〕 日本工業規格（JIS）に規定するセラミックタイルに関する記述として、**最も不適当なものはどれか。**

1. 素地<sup>きじ</sup>は、タイルの主体をなす部分をいい、施ゆうタイルの場合、表面に施したうわぐすりも含まれる。
2. 表張りユニットタイルとは、多数個並べたタイルの表面に、表張り紙を張り付けて連結したものをいう。
3. 裏連結ユニットタイルとは、多数個並べたタイルの裏面や側面を、ネットや台紙等の裏連結材で連結したものをいう。
4. タイルには平物と役物があり、それぞれ形状は定形タイルと不定形タイルに区分される。

〔No. 14〕 防水材料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルトプライマーは、下地と防水層の接着性を向上させるために用いる。
2. 砂付あなあきアスファルトルーフィングは、下地と防水層を絶縁するために用いる。
3. 網状アスファルトルーフィングは、立上り防水層の張りじまいや貫通配管回り等の増張りに用いる。
4. 絶縁用テープは、防水層の末端部に使用し、防水層のずれ落ち、口あき、はく離等の防止に用いる。







※ 問題番号〔No. 15〕～〔No. 17〕までの3問題は、全問題を解答してください。

〔No. 15〕 構内舗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルト舗装の表層から路盤までの厚さは、路床土の設計 CBR の値が大きいほど薄くできる。
2. クラッシュランとは、岩石を割り砕いたままで、ふるい分けをしていない碎石のことである。
3. コンクリート舗装に用いるコンクリートのスランプの値は、一般の建築物に用いるものより大きい。
4. 路床は、地盤が軟弱な場合を除いて、現地盤の土をそのまま十分に締め固める。

〔No. 16〕 日本工業規格（JIS）に規定する構内電気設備の名称とその配線用図記号の組合せとして、不適当なものはどれか。

1. 情報用アウトレット（LAN ケーブル端子） ————— 
2. 蛍光灯 ————— 
3. 換気扇 ————— 
4. 分電盤 ————— 

〔No. 17〕 建築設備とそれに関連する用語の組合せとして、最も関係の少ないものはどれか。

1. 給水設備 ————— ヒートポンプ
2. 排水設備 ————— トラップ
3. 電気設備 ————— バスダクト
4. 空気調和設備 ————— 2重ダクト

※ 問題番号〔No. 18〕～〔No. 32〕までの15問題のうちから、12問題を選択し、解答してください。

〔No. 18〕 地盤の標準貫入試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 貫入量 100 mm ごとの打撃回数を記録し、1回の貫入量が 100 mm を超えた打撃は、その貫入量を記録した。
2. 本打ちの貫入量 200 mm に対する打撃回数が 30 回であったので、その深さの N 値を 30 とした。
3. 本打ちの打撃回数は、特に必要がなかったので、50 回を限度として打撃を打ち切った。
4. 本打ちは、ハンマーの落下高さを 760 mm とし、自由落下させた。

〔No. 19〕 鉄筋のかぶり厚さに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 大梁の最小かぶり厚さは、梁主筋の外側表面から確保する。
2. D 29 以上の梁主筋のかぶり厚さは、主筋の呼び名に用いた数値の 1.5 倍以上とする。
3. 直接土に接する梁と布基礎の立上り部のかぶり厚さは、ともに 40 mm 以上とする。
4. 杭基礎におけるベース筋の最小かぶり厚さは、杭頭から確保する。

〔No. 20〕 型枠の締付け金物等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 独立柱の型枠の組立てには、セパレータやフォームタイが不要なコラムクランプを用いた。
2. 打放し仕上げとなる外壁コンクリートの型枠に使用するセパレータは、コーンを取り付けないものを用いた。
3. 外周梁の側型枠の上部は、コンクリートの側圧による変形防止のため、スラブ引き金物を用いて固定した。
4. 型枠脱型後にコンクリート表面に残るセパレータのねじ部分は、ハンマーでたたいて折り取った。

〔No. 21〕 コンクリートの調合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

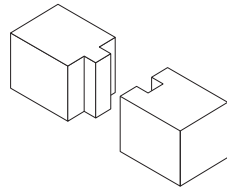
1. コンクリートに含まれる塩化物は、原則として塩化物イオン量で  $0.30 \text{ kg/m}^3$  以下とする。
2. 単位セメント量は、水和熱及び乾燥収縮によるひび割れを防止する観点からは、できるだけ少なくする。
3. 単位水量は、最大値を  $185 \text{ kg/m}^3$  とし、所定の品質が確保できる範囲内で、できるだけ少なくする。
4. 細骨材率は、乾燥収縮によるひび割れを少なくするためには、高くする。

[No. 22] 高力ボルト摩擦接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

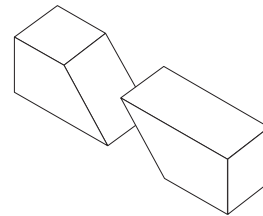
1. ナット側の座金は、座金の内側面取り部がナットに接する側に取り付ける。
2. ナット回転法による本締めにおいて、ナットの回転量が不足しているボルトは、所定の回転量まで追締めする。
3. ナットとボルトが共回りを生じた場合は、新しいボルトセットに取り替える。
4. ボルトの締め付けは、ボルト群ごとに継手の周辺部より中央に向かう順序で行う。

[No. 23] 在来軸組構法の木工事における継手の図の名称として、不適当なものはどれか。

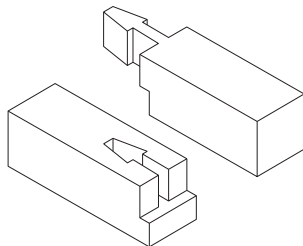
1. 目違い継ぎ



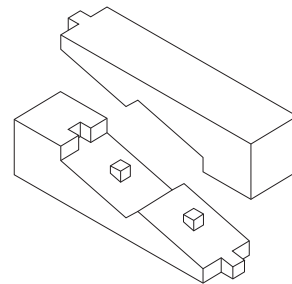
2. そぎ継ぎ



3. 腰掛け<sup>あり</sup>蟻継ぎ



4. 台持ち継ぎ



〔No. 24〕 鉄筋コンクリート造建築物の解体工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 地上作業による解体は、地上から解体重機で行い、上階から下階へ床、梁、壁、柱の順に解体していく。
2. 階上作業による解体は、屋上に揚重した解体重機で最上階から解体し、解体で発生したコンクリート塊を利用してスロープをつくり、解体重機を下階に移動させながら行う。
3. 外周部の転倒解体工法では、外周部を転倒させる床に、事前にコンクリート塊や鉄筋ダンゴなどをクッション材として積んでおく。
4. 外周部の転倒解体工法では、最初に柱脚部の柱主筋をすべて切断し、次に壁下部の水平方向、壁及び梁端部の垂直方向の縁切りを行った後に転倒させる。

〔No. 25〕 塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート防水接着工法に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ルーフィングシート相互の接合部は、重ね面を溶剤溶着とし、端部は液状シール材を用いて処理した。
2. プライマーは、ALC パネル下地であったため、塗布しなかった。
3. 防水層の立上り末端部は、押え金物で固定し、不定形シール材を用いて処理した。
4. ルーフィングシートの張付けは、エポキシ樹脂系接着剤を用い、下地面のみに塗布した。

〔No. 26〕 鉄筋コンクリート造の外壁乾式工法による張り石工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 入隅で石材がのみ込みとなる部分は、目地位置より 20 mm を表面仕上げと同様に仕上げた。
2. ファスナー部分は、固定のため、張り石と躯体のすき間に取付け用モルタルを充填した。
3. 石材間の一般目地は、目地幅を 10 mm としてシーリング材を充填した。
4. 幅木は、衝撃対策のため、張り石と躯体のすき間に裏込めモルタルを充填した。

〔No. 27〕 ステンレス板の表面仕上げの説明として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. No. 2B は、冷間圧延して熱処理、酸洗した後、適度な光沢を与えるために軽い冷間圧延をした仕上げである。
2. ヘアラインは、冷間圧延して光輝熱処理を行い、さらに光沢を上げるために軽い冷間圧延をした仕上げである。
3. エッチングは、化学処理により研磨板に図柄や模様を施した仕上げである。
4. 鏡面は、研磨線がなくなるまでバフ仕上げをした最も反射率の高い仕上げである。

〔No. 28〕 仕上塗材仕上げに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 各工程ごとに用いる下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所のものとした。
2. 仕上塗材の付着性の確保や目違いの調整のため、下地コンクリート面にセメント系下地調整塗材を使用した。
3. シーリング面への仕上塗材仕上げは、塗重ね適合性を確認し、シーリング材の硬化後に行った。
4. 複層仕上塗材の仕上げ形状を凹凸状とするため、主材基層、主材模様及び上塗りをローラー塗り工法とした。

〔No. 29〕 建具金物に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. モノロックは、内外の握り玉の同一線上で施錠ができる錠で、押しボタンやシリンダーが設けられている。
2. グラビティヒンジは、扉側と枠側のヒンジ部の勾配を利用し、常時開又は常時閉鎖の設定ができる。
3. ピボットヒンジは、床に埋め込まれる扉の自閉金物で、自閉速度を調整できる。
4. ドアクローザは、開き戸の自閉機能と閉鎖速度制御機能を有している。

〔No. 30〕 塗装工事の素地ごしらえに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 透明塗料塗りをする木部面に著しい色むらがあったため、着色剤を用いて色むら直しを行った。
2. けい酸カルシウム板面の吸込み止めは、穴埋めやパテかいの後に塗布した。
3. ALC パネル面の吸込み止めは、下地調整前に全面に塗布した。
4. 鉄鋼面の錆及び黒皮は、サンドブラストで除去した。

〔No. 31〕 床のフローリング張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 体育館の壁とフローリングボードの取合いは、すき間が生じないように突き付けた。
2. 根太張り工法で釘打ちと併用する接着剤は、エポキシ樹脂系接着剤とした。
3. 根太張り用のフローリングボードは、根太上に接着剤を塗布し、雄ぎねの付け根から隠し釘留めとした。
4. 張込み完了後の表面に生じた目違いは、養生期間を経過した後、サンディングした。

〔No. 32〕 外壁の押出成形セメント板張りに関する記述として、**最も不適當なもの**はどれか。

1. パネルの取付け金物（Zクリップ）は、下地鋼材にかかり代を 30 mm 以上確保して取り付けた。
2. パネルの取付け金物（Zクリップ）は、取付けボルトがルーズホールの中心に位置するように取り付けた。
3. 幅 600 mm のパネルに設ける欠込み幅は、300 mm 以下とした。
4. 工事現場でのパネルへの取付けボルトの孔あけは、振動ドリルを用いて行った。

※ 問題番号〔No. 33〕～〔No. 42〕までの10問題は、全問題を解答してください。

〔No. 33〕 事前調査や準備作業に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 敷地境界標石があったが、関係者立会いの上、敷地境界の確認のための測量を行うこととした。
2. 地業工事で振動が発生するおそれがあるため、近隣の商店や工場の業種の調査を行うこととした。
3. 相互チェックできるように木杭ベンチマークを複数設けたため、周囲の養生柵を省略することとした。
4. 既存の地下埋設物を記載した図面があったが、位置や規模の確認のための掘削調査を行うこととした。

〔No. 34〕 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ガスボンベ置場は、小屋の壁の1面は開放とし、他の3面の壁は上部に開口部を設けることとした。
2. 工事現場の敷地周囲の仮囲いに設置する通用口には、内開き扉を設けることとした。
3. 所定の高さを有し、かつ、危害を十分防止し得る既存の塀を、仮囲いとして使用することとした。
4. 工事ゲートの有効高さは、鉄筋コンクリート造の工事のため、最大積載時の生コン車の高さとする事とした。

〔No. 35〕 建築工事に係る提出書類とその提出先に関する記述として、不適当なものはどれか。

1. 掘削深さが10 m以上である地山の掘削を行うため、建設工事計画届を労働基準監督署長に提出した。
2. 仮設のゴンドラを設置するため、ゴンドラ設置届を労働基準監督署長に提出した。
3. 延べ面積が10 m<sup>2</sup>を超える建築物を除却するため、建築物除却届を労働基準監督署長に提出した。
4. 常時10人の労働者が従事する事業で附属寄宿舎を設置するため、寄宿舎設置届を労働基準監督署長に提出した。

〔No. 36〕 建築工事の工程計画及び工程管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工事に必要な実働日数に作業休止日を考慮した日数を、暦日という。
2. 工程計画は、所定の工期内で、所定の品質を確保し、経済的に施工できるよう作成する。
3. 作業員や資機材等の投入量が一定量を超えないように工程を調整することを、山崩しという。
4. 横軸に工期を取り、出来高累計を縦軸とした進捗度グラフは、一般に直線となる。

〔No. 37〕 バーチャート工程表に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 各作業の全体工期への影響度が把握しにくい。
2. 各作業の開始時期、終了時期及び所要期間を把握しやすい。
3. 工程表に示す作業を増やしたり、作業を細分化すると、工程の内容が把握しやすくなる。
4. 主要な工事の節目をマイルストーンとして工程表に付加すると、工程の進捗状況が把握しやすくなる。

〔No. 38〕 品質管理の用語に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 見える化は、問題、課題、対象等を、いろいろな手段を使って明確にし、関係者全員が認識できる状態にすることである。
2. QCDSは、計画、実施、点検、処置のサイクルを確実に、かつ、継続的に回してプロセスのレベルアップをはかる考え方である。
3. 特性要因図は、結果の特性と、それに影響を及ぼしている要因との関係を魚の骨のような図に体系的にまとめたものである。
4. 5Sは、職場の管理の前提となる整理、整頓、清掃、清潔、しつけ（躰）について、日本語ローマ字表記で頭文字をとったものである。

〔No. 39〕 品質管理のための試験に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鉄骨工事において、高力ボルト接合の摩擦面の処理状況の確認は、すべり係数試験によって行った。
2. 地業工事において、支持地盤の地耐力の確認は、平板載荷試験によって行った。
3. 鉄筋工事において、鉄筋のガス圧接部の確認は、超音波探傷試験によって行った。
4. 既製コンクリート杭地業工事において、埋込み杭の根固め液の確認は、針入度試験によって行った。



〔No. 40〕 レディーミクストコンクリートの受入時の試験に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 圧縮強度の試験は、コンクリート打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150 m<sup>3</sup>以下の単位ごとに行った。
2. スランプ試験は、1 cm 単位で測定した。
3. 粗骨材の最大寸法が 20 mm の高流動コンクリートは、スランプフロー試験を行った。
4. 普通コンクリートの空気量の許容差は、± 1.5 % とした。

〔No. 41〕 作業主任者を選任すべき作業として、「労働安全衛生法」上、**定められていないもの**はどれか。

1. 支柱高さが 3 m の型枠支保工の解体の作業
2. 鉄筋の組立ての作業
3. 高さが 5 m のコンクリート造の工作物の解体の作業
4. 解体工事における石綿の除去作業

〔No. 42〕 建築工事の足場に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 単管足場の脚部は、敷角の上に単管パイプを直接乗せて、根がらみを設けた。
2. 単管足場の建地の間隔は、けた行方向 1.8 m 以下、はり間方向 1.5 m 以下とした。
3. 単管足場の建地の継手は、千鳥となるように配置した。
4. 単管足場の地上第一の布は、高さを 1.85 m とした。

※ 問題番号〔No. 43〕～〔No. 50〕までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

〔No. 43〕 建築確認手続き等に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築確認申請が必要な工事は、確認済証の交付を受けた後でなければ、することができない。
2. 建築確認申請が必要な工事の施工者は、設計図書を工事現場に備えておかなければならない。
3. 建築主は、建築確認を受けた工事を完了したときは、建築主事又は指定確認検査機関の完了検査を申請しなければならない。
4. 建築主は、工事現場の見やすい場所に、国土交通省令で定める様式によって、建築確認があった旨の表示をしなければならない。

〔No. 44〕 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 戸建住宅の階段の蹴上げは、23 cm 以下とする。
2. 最下階の居室の床が木造である場合における床の上面の高さは、原則として直下の地面から45 cm 以上とする。
3. 集会場の客用の屋内階段の幅は、120 cm 以上とする。
4. 階段に代わる傾斜路の勾配は、 $\frac{1}{8}$  を超えないものとする。

〔No. 45〕 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 特定建設業の許可は、国土交通大臣又は都道府県知事によって与えられる。
2. 建築工事業で一般建設業の許可を受けている者が、建築工事業で特定建設業の許可を受けた場合、一般建設業の許可は効力を失う。
3. 建設業の許可を受けようとする者は、営業所ごとに所定の要件を満たした専任の技術者を置かなければならない。
4. 一般建設業と特定建設業の許可の違いは、発注者から直接請け負うことができる工事の請負代金の額の違いによる。

〔No. 46〕 工事現場における技術者に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 請負代金の額が6,000万円の共同住宅の建築一式工事を請け負った建設業者が、工事現場に置く主任技術者は、専任の者でなければならない。
2. 発注者から直接建築一式工事を請け負った建設業者は、下請代金の総額が6,000万円未満の下請契約を締結して工事を施工する場合、工事現場に主任技術者を置かなければならない。
3. 主任技術者を設置する工事で専任が必要とされるものでも、密接な関係のある2以上の建設工事を同一の建設業者が同一の場所において施工するものについては、これらの工事を同じ主任技術者が管理することができる。
4. 建築一式工事に関し10年以上実務の経験を有する者は、建築一式工事における主任技術者になることができる。

〔No. 47〕 次の記述のうち、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 親権者又は後見人は、未成年者に代って労働契約を締結することができる。
2. 使用者は、満18歳に満たない者について、その年齢を証明する戸籍証明書を事業場に備え付けなければならない。
3. 未成年者は、独立して賃金を請求することができる。
4. 使用者は、原則として満18歳に満たない者を午後10時から午前5時までの間において使用してはならない。

〔No. 48〕 主要構造部が鉄骨造である建築物の建設工事の現場において、店社安全衛生管理者を選任しなければならない常時就労する労働者の最小人員として、「労働安全衛生法」上、正しいものはどれか。

ただし、統括安全衛生責任者が選任される場合を除くものとする。

1. 10人
2. 20人
3. 30人
4. 50人

[No. 49] 建設工事に係る次の資材のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」上、特定建設資材に**該当しないもの**はどれか。

1. 木造住宅の新築工事に伴って生じた木材の端材
2. 木造住宅の新築工事に伴って生じたせっこうボードの端材
3. 駐車場の解体撤去工事に伴って生じたコンクリート平板
4. 駐車場の解体撤去工事に伴って生じたアスファルト・コンクリート塊

[No. 50] 次の建設作業のうち、「騒音規制法」上、特定建設作業に**該当しないもの**はどれか。  
ただし、作業は開始した日に終わらないものとする。

1. 環境大臣が指定するものを除く、原動機の定格出力が80kWのバックホウを使用する作業
2. 環境大臣が指定するものを除く、原動機の定格出力が70kWのトラクターショベルを使用する作業
3. くい打機をアースオーガーと併用するくい打ち作業
4. 圧入式を除く、くい打くい抜機を使用する作業